

# ようこそ先輩！

～宮崎先生をお招きして～

9月12日（木）の5，6限に、『ようこそ先輩』と題し、講演会を行いました。本校の卒業生（47期生）であり、現在、東京造形大学の助教を務められている宮崎勇次郎先生をお招きしての講演会でした。



講演会は、宮崎先生の紹介から始まりました。芸短大の教室をお借りして、モニターでのスライドショーを交えての紹介です。東京での個展の様子、大分での活動の様子、先生自身の絵のルーツ（実家が銭湯を営んでいる）などについても話題に上がりました。

その後、講演会の部屋前方に展示された作品に対する質問と返答が行われました。生徒からは・・・「鮮やかな色」「作品のアイデア源泉」「美術におけるコンセプトの必要性」「集中力を続かせる方法」に関する事柄などについて、質問がでました。

先生からは、それらの質問に対し、一つひとつ丁寧に考えを述べてくれました。

作品内のモチーフ組み合わせの思考過程（気になる言葉をメモでま



とめておく）や、制作過程のヒント（大きな作品は、2～3か月かかることもあるため、社会の状況が更新されていく中で、作品にもそれらの題材が入り込んでくる）など、実際の制作における様子を作品の前に話して戴きました。

また、「描こうとした物には、きっかけがあるはずで、後からそれがコンセプトにつながることもある・・・自分の事を客観的に眺めるためにもコンセプトは必要」ともおっしゃっていました。



先生は、大学を卒業してゲーム会社に就職しながらも、朝4時には起きて、自らの制作を行い、満員電車の中で、携帯で撮った制作途中の作品を眺めては、構想を練ったりしてきたそうです。気になった言葉は、メモをし、自分のアイデアの素にしたり、常に制作に向き合ってきた経緯を聞くことができました。

また、「集中力がなくなった時、行き詰った時は、『無理矢理、制作を続けます』の一言は、これから更に美術を学ぶ高校生にとって、とてもよい刺激になった言葉に思えました。人と比べることではなく、『ものの本質をつくものができればいい。』と語ってくれた宮崎先輩でした。

